良いところ「真似て」

入社式 初めて開催

【兵庫】近中距離の引っ越しをメインに手掛ける平戸梱包運送（平戸伸和社長、神戸市中央区）は1日、同社初の入社式を開催し、高校を卒業したばかりの久司翔大、高木奏汰の両氏を歓迎した。会場の本社には山本慶介兵庫営業所長、牧田六郎顧問らが出席し、社を挙げて2人の社会人としての門出を祝った。

新入社員への辞令を交付した後、平戸社長は「新型コロナウイルス禍で何かと暗い世相の中、新しく入社してもらえることになり、

「お客さまに喜ばれるよう頑張る」と決意表明する新入社員の久司氏㊧

まての勉強と違い、社会人は答えがない問題にぶつかることもある。そんな時には先輩たちの良い部分を盗み、真似して欲しい。学ぶことは『真似ぶこと』とも言われる。人の良いところを見習い、自分流のやり方を確立して欲しい」と訓示。同社の経営理念について、平戸氏が詳しく説明した。

新入社員2人も社会人としての決意を表明。同社でのアルバイト経験もある久司氏は「バイトとして働いた後、平戸社長は「新型接感謝の気持ちを伝えられたのを覚えている。今後も、お客さまに喜ばれるよう頑張る」、高木氏は「先輩方の下で多くのことを学び、早く仕事を覚えて成長していきたい」とそれぞれ宣言した。

かつて同社で長年勤めていた牧田氏が「平戸梱包運送では、後輩が分かるまでしっかり先輩が教える風土がある。分からないところは質問して、成長して欲しい」とエールを送り、山本氏らも祝辞を述べた。

社近くの湊川神社に参拝。会社の更なる成功と2人の飛躍を願った。入社式後にはYOU社会保険労務士・行政士事務所の秦優氏、DHサポートの石岡真理子代表を講師に招き、研修を行った。

同社では新しい価値観が吹き込まれることを目的に、コロナ禍ではあったものの、高校生の新卒採用を実施。これまで決まった時期に入社式を行ったことはなかったが、新卒採用の第1期生を迎え入れるため開は引っ越しの作業員からスタートし、ステップアップを目指す。

（黒須晃）